

# 槐

かい

岡井省二創刊

令和3年6月号

令和三年六月一日発行 第三十一巻第六号 通巻第三六〇号 (毎月一回) 日発行  
平成三年九月十八日第三種郵便物認可



# 接木

高橋将夫

煙から人現はるる野焼かな  
うららかや彼の世は素通りするつもり  
菜の花に戻りて蝶のみな消ゆる  
愛されて当然といふ赤い薔薇

春塵や宇宙ただよふ宇宙塵

高齢者向きの道あり春の山

こんなにもどこから湧くか春埃

悩み事ないというのが春愁

つきつめてゆけばゆくほどかぎろひぬ

期待とは接木にかける思ひなり

老木に夢を見る木を接木せり



# ランチクルーズ

山田佳子

櫻咲く賞で来し月日慎しみて  
もののふの還り来たるや山櫻  
さくらさくら前に聳ゆる交野山  
山中にかたくりの花群生す  
依り代は奇妙な石や風光る  
箱書きは祖父の文字なり武具飾る  
風光るランチクルーズ橋くぐる  
白南風や公会堂のオムライス  
芍薬の蕾に心音聞かれをり  
代田水山影ゆれてをりしかな

## 特別作品

大木の罅をすみかに日雷  
魂迎ふしづかに風の生るるなり  
穂絮飛ぶ文字の大きな辞書を買ふ  
子等はみな五十路となりて竹の春  
万国旗靡くバザール文化の日  
藤袴寺に明智の持佛展  
落日の田に立つ嶋の歩みかな  
金柑の福福しさを持て余し  
年玉を受けて戸惑ふ主かな  
左義長や焔の中に返事あり

# 槐集

高橋将夫選

春暁の希望の色に祈りたり

大阪 藤田美耶子

春雷や龍角散を飲みこぼし

自粛する胸浮き立ちぬ梅の風

風見鶏ペンキの色の春めきぬ

桃の花性別欄の無くなる世

佐保姫の後ろ姿や生駒山

平野 多聞

安堵なる目許口許涅槃像

断食や菩薩の指の春の蠅

積み上げる除染袋や花の冷え

春筍の夢は宇宙を目指しをる

竜天に登る懐に方丈記

守口 三木 亨

あくびして隠すものなき春の河馬

秘密基地かつて作りし山笑ふ

春の土掘りすぎて地球の匂ひ

貝寄風に乗つてビーナス呵呵大笑

潜在と顕存分かつ春初め

守口 中西 厚子

無限なる引き出しのある春朝日

朧めくみんなどうしてゐるのだろ

旅半ば終息点の朧めく

春浅し自ら決める負の尺度

寝すごして行く春に追ひ越さる

枚方 井上 静子

陀羅尼助数へてをりし蝌蚪遊ぶ

夜具干して宇宙の春をいただきぬ

白髪の高婦人とゆく桜みち

誰もぬぬ笑ひ声だけ朧の夜

水仙の花や独りが好きと言ふ

竹原 久保 夢女

二ヶ月や人魚そろそろ目を醒ます

ありがたう告げておかねば桜草

緋毛氈眼鏡はづして雛の客

ぐぐぐぐ手応への在り春を釣る